

田植えが終わりました

能登　いまい農場だより　6月号

お買い上げ頂き、ありがとうございます。

5月中、例年よりも雨が少なく、田んぼの水の管理にちょっと苦労しましたが、順調に生育しています。

皆様いかがお過ごしですか？

■民宿ふらっとさん　夫婦で当農場を訪れる

能登町矢波に超有名な民宿ふらっとがあります。

各種メディアが訪れ、オーストラリア出身のご主人ベンさんと、地元出身の奥様が経営される、一日4組限定のお宿です。イタリアンの食事なのですが、能登の食材をふんだんに使い、能登のいしりや、いわしのぬかづけなど、自分で漬け込みされ、こだわりの食材で食通をうならせるお宿なのです。



5月19日、畑に使う糲殻を取りに来られ、

しばし談笑。ちなみに当農場のお米も、宿の朝食に使っていただいている。写真は育苗ハウスの前で。　民宿ふらっとのホームページもご覧ください。 <http://flatt.jp/>

■イネミズゾウムシが葉先に

有機米の田んぼは5月28に植えて活着直後ですが、田んぼを見回ると、多くの苗の葉先には2ミリほどの成虫のイネミズゾウムシがいます。この虫、米国からの外来虫と言われています。幼虫は稻の根を食害し、成虫は葉を食べるのですが、特に根っこが幼虫に食害されると、生育が止まったようになり、減収の原因になります。

一般栽培では、田植え時に害虫予防の薬剤散布を行います。この薬剤の多くが、植物移行性の薬剤で、苗の根っこから吸収された薬剤が苗に移行し食害した虫をやっつけるといったものです。全国規模で、今、赤とんぼが減少しているのですが、田んぼのヤゴも、一部この薬剤により減少しているのではといわれています。

当農場では、特別栽培米や有機栽培米を栽培しているため、病害虫予防のための農薬は使っていません。毎年、部分的に色ざめし、何株かは被害に遭うのですが、がっちりした苗、稻の窒素過多などをさけるようにして栽培し、被害を最小限にとどめています。

■今・これからの作業

機械田植えが終わったばかりで、今少し、補植(失せ苗)作業があります。草取り作業や、転作大豆の播種作業もあります。